

校名：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

所在地：〒920-0933 石川県金沢市東兼六町 2 番 10 号 電話番号：076-263-5551

記載日：平成 28 年 5 月 16 日 記載者：山本仁 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、金沢市中心部市街地に立地し、学校周辺には文化施設や商業施設が多数ある。日本三大名園の一つである「兼六園」や金沢城公園も近くにあり市街地にもかかわらず自然も豊かである。

また、金沢大学は車で 15 分ほどの里山にあり、本校は地域資源や大学の環境資源、人的資源を十分に活用している。

教育活動では、学校研究を通じて児童生徒一人一人の思いや考えを大切にする教師の関わりや授業を大切にするのが本校の文化となっている。

教員構成は、県教育委員会との人事交流教員が 6 割、大学採用教員が 4 割で、学校研究や運営の継続が比較的スムーズに行われている。

その他、教員と保護者、さらには卒業生保護者や OB 教員との関わりも深く家庭的な雰囲気がある。

貴校の卒業生の活躍状況について：

本校は創立以来平成 27 年度までに 445 名の生徒を社会に送り出している。

過去 5 年間の進路状況は、一般就労が 3 割で、その他のほとんどが福祉就労をしている

卒業生の追跡調査は行っていないが、10 年程前に OB 教員が個人的に行った調査結果や年に一度の同窓会、卒業生の余暇活動、育成会等との連携で卒業生の動向は把握できる。

卒業生の情報は進路課が管理している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

平成 20 年度より、転出先の校務分掌の中で、研究主任に任命されたかどうかを確認している。

26 名の内、2 名が研究主任を務めた。

本校は、県内の特別支援学校と校長会、教頭会、部主事会をはじめ県主催行事にも参加しており県の動向を把握することができる環境にある。

これまで、本校に勤務した教員で 2 名が特別支援学校長、1 名が特別支援学校教頭、5 名が部主事を務めている。

これらの情報は、本校が管理している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

本校は、平成 25 年度より文部科学省の事業を受託し、特別支援教育におけるキャリア教育研究に取り組んでいる。小学部段階からのキャリア教育・キャリア発達支援研究に取り組む特別支援学校は少なく、他校の教育活動に有益な情報を提供できるものと考えている。

平成 26 年度・27 年度の研究成果発表会ではそれぞれ 100 名を超える参加者があった。平成

27年度には県立の特別支援学校と共同で教育シンポジウムも開催し、研究活動においても県立学校との情報共有に努めている。



医学図書館ブックラウンジに設置したカフェ
で接客する高等部生徒



県立特別支援学校との合同教育シンポジウム

また、一昨年度より育友会と協働して、学校防災に取り組み、地域避難所の指定を受けるにあたり、行政や地域との連携にも着手した。キャリア教育研究とあわせて、地域協働型の教育活動を展開する学校を目指している。

本校のクラブ活動は育友会の事業として行っている。クラブ講師は本校の教員や外部講師が務めている。毎年9～12のクラブが、原則週に一回活動している。平成28年度のクラブは、「やきもの」「絵本の読み聞かせ」「ラジコンヘリ」「トランポリン」「ボールエクササイズ」など9クラブである。参加は任意で、毎年7割程度の児童生徒、保護者が参加している。卒業生の保護者、卒業生も参加することができ、大切な余暇活動の場となっている。この取り組みは県内の特別支援学校保護者の研究会や全国規模の研究会でも発表した。

さら



トランポリンクラブ



書道クラブ



茶道クラブ

に、本校には卒業生の余暇活動を支援する会があり、本校を会場として月に一回卒業生が集まり、スポーツや音楽、外出を楽しんでいる。会の運営主体は卒業生の保護者と本校教員の担当で、本校の教員やOB教員がボランティアで活動を支援している。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

県内の特別支援学校からは、今日的な教育課題に関する研究とその成果発表に期待する声も一部にあるが、研究校としてのモデル的な存在にはなり得ていない。また、教員数の関係から地域の特別支援教育のセンター校としての取り組みは積極的には行っていないなど現状は厳しい。

3年前より、文科省の事業を受託したり、県立の特別支援学校と共同でシンポジウムを開催したりするなど、何ができるか模索を始めている。

学校周辺の地域は、古くからの住宅地で高齢者が多い。近隣に高齢者サービスと保育園を運営する社会福祉法人があり、交流を行っている。キャリア教育研究の一環として、地域に高等部生徒が製作したプランターと花を飾る取り組みを始めるなど、地域と共に教育活動を展開する、地域協働型の学校づくりを始めている。

防災も含めた、地域にとって必要な学校を目指している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

3年間の文科省の事業を受託し、研究に取り組んだことで、児童生徒の教育を第一義としながらも、大学の附属研究施設としての使命を今まで以上に果たしていく必要性を強く感じている。

教育活動に対する自由度や大学資源を大いに活用しつつ、今日的な教育課題に挑戦的・実験的に取り組んでいくことができるのが附属学校であると実感している。

そして、取り組みの成果を、広く地域や全国に発信していかなければならない。

上記の取り組みを通じて、教職員や学生が育つ学校でありたい。